

2026年度 東京大学 前期 国語 文系

(文科・理科 共通)

第一問

(五)						(四)	(三)	(二)	(一)
a	バ	対	家	夕	精	治			
変	触	的	同	数	神	療			
貌	発	権	士	の	分	者			
b	さ	威	の	参	析	と			
親	れ	に	対	加	と	患			
戚	て	は	話	者	違	者			
c	、	る	が	の	い	バ			
幻	患	の	示	対	、	権			
覚	者	と	さ	等	オ	威			
	バ	材	れ	な	、	的			
	変	バ	、	対	フ	は	互に影響しあっているから無数の語りバ紡ぎ出されていくということ。	患者や家族、専門家バサは平等に発言の機会と権利を与えられ、相互に影響しあっているから無数の語りバ紡ぎ出されていくということ。	精神分析では、分析家バ横たわる患者の頭上に位置し、本来対等な両者に権威ある他者と自己という上下関係を設定するということ。幼少期の重要は他者に重ねられる分析家バ解釈を行うことで、患者は過去に作られた超自我の像をより非抑圧的なものにできるから。
	容	つ	患	話	ン	一			
	す	つ	者	の	ダ	対			
	る	患	の	中	イ	一			
	と	者	内	で	ア	の			
	い	内	な	と	ロ	関			
	う	部	る	き	、	係			
	こ	の	声	に	グ	を			
	と	対	が	専	で	と			
	。話	絶	門	は	る				

第二問

(一)			(二)	(三)	(四)	(五)
ア	並々でなく立派にあさせになる。		エ そのまよ語ることができないのは、かえって語り甲斐がない。	狭衣大将の悲しい様子になるほど相手の女性に短命だったのは残念だと思つた情。	狭衣大将の夢の中で、飛鳥井の女君が生前の姿で大将の側に立っているということ。	狭衣大将の手厚く育てるおかげで、自分は成仏できそうだったということ。
イ	涙で袖を濡らすはい人もないやうである			自分への未練で成仏できない、おもしろくない飛鳥井の女君の冥福を祈りにいから。		

第三問

(一)		(二)	(三)	(四)
b	水辺に残されていて	役立たずで世の人が見向きもしないということ。	人の世界に存在するものとも思えないこと、ということ。	老いぼれの私を仲間に加えてくれるかどうか。
d	自分に合う仲間を求める			
e	受け入れてくれないのを			

※(一) b 別解 「水辺に棄てられていて」

第四問

(一)	(二)	(三)	(四)
親の事情で馴染んだ環境から引き離されたことを甘んじて受け入れつつ、孤独で居場所のない日々にはやりの場のない思いを抱いている。	畑というにはあまりに雑然とした自分の畑を見せ、狙い通り驚き興味を引かれた様子の翔子に喜びを覚え、いざ通いと感いている。	授業参観を欠席して弥生さんの畑に行くという提案に喜び翔子を見て、空しく煩わしい日常を脱せるような予感を自分も覚えたから。	周囲からの強要のない自由で自然を育てるといふ弥生さんの言葉に、子育てに閉する気持ちと死んだ母から得たように感じたから。